

国分寺市プレイステーション指定管理に関する事業計画及び企画提案書

平成28年 11月 30日

団体名称 特定非営利活動法人 冒険遊び場の会

*各項目について、貴団体等の状況及び指定管理に係る取り組み・考え方について記載してください。

*各項目の記載欄不足の場合は、任意の別紙に記載し添付してもかまいません。

(1) 団体等の理念・姿勢

*施設の設置目的に対する理解や公共性・平等利用への考え方

子どもたちの健やかな成長のためには、知育だけでなく、実体験に裏打ちされた確かな知識や生きるための「知恵」、そして身体を動かすことが重要とされていますが、現代の子どもたちには、それらを十分に育むための土壌が用意されていません。

都市化は、子どもたちから自然環境と遊び場を奪い、身体の発達や生き物への愛着を育むことがとても難しくなっています。

私たち冒険遊び場の会は、子どもたちが心身共に成長するためには、「子どもの遊び」や「遊びの環境」を整えていくことが最も重要だと考えました。なぜなら、遊びは、子どもが自らすすんで身体を使い、自然に親しみ、創造性や生きる知恵、勇気や思いやりを養う絶好の営みだからです。

子どもは、火や水、土、風、などの自然とふれ合うことで五感を養い、成長しますが、現在のまち中や公園という枠の中ではなかなか難しく、冒険遊び場は、そういった意味で自然とふれ合える条件を整えた施設といえます。また、プレイリーダーという大人を配置することで、子どもの冒険的な遊びや創造的な遊びの手助けをしたり、また安全にかつ自由な遊びを展開できる遊び場の条件整備をします。また、地域の子育てグループや青少年育成団体に活動の場を提供することで、子育てを通じた交流の一助ともなります。

私たちが子どもたちに対して大切にしていきたいことは、自然と親しみ、共存していく気持ちを養うことです。これは、生き物とのふれあい、泥遊び、水遊び、木や草での遊びなどを通じて大切に育んでいきたいと考えます。また、自然の脅威（危険）を知り、自然を利用する知恵を養うこと。これは、木登り、ロープ遊び、火起こし、火を使っての調理などを通じて育んでいきたいと考えます。また、衣・食・住に関わる体験活動を通じて総合的な生きる力を養うこと。これは、基地づくり、木工作、生き物を捕らえること、調理して食べること、染めものや編み物、皮細工、金属加工などを行う中、育んでいきたいと考えています。

このように、冒険遊び場は、遊びを通して子どもたちの生きる力を育成するためのさま

さまざまな条件を持った施設として必要不可欠な施設であり、しかも、どんな子どもでも無料で利用できる場として、公共的に運営されることがのぞましい施設といえます。特に、遊びという分野は障がいのあるなし、年齢の高低、などの枠を取り去る力があり、人との関わりを学ぶ場としても有用です。

国分寺市プレイステーションは、1982年に財団法人によって開設され、1999年に市の施設として運営されるようになりましたが、全国でも自治体が運営する数少ない貴重な冒険遊び場として多くの視察があります。

冒険遊び場の会は、市の施設に移行する段階から市民主体の運営組織を立ち上げ、NPO法人化、そして認定NPO法人化をしながら、国分寺市プレイステーションが多くの市民に利用されるよう、努力をしてきました。社会情勢の問題で、子どもの遊びを保障する必要性は年々高まっています。子どもの健全な育成を望む保護者からも、ますます期待されると実感しています。

(2) 団体の安定性

*団体等の経営状況の安定性

1998年の会の結成当時は、市内におけるさまざまな活動をボランティアでおこなってきた。その後、2000年1月に特定非営利活動法人の認証後、毎年、事業費が増え続けてきた。また、当初は法人市民税免除から、今では市民税、事業税などを支払うようになってきている。

従来の委託事業だけでなく、子育て支援分野で提案型の協働事業を企画、受託したり、武蔵国分寺公園での他のNPOとのコラボレーション事業も行っており、幅広い活動で経営の安定もめざしている。

特に2014年7月には認定NPO法人となったことで、寄付金を集めやすくなり、財源確保に以前より道筋が見え始めている。

(3) 団体の継続性

*団体等の設立から何年経過しているか

- | | |
|----------|---|
| 1998年12月 | ・国分寺冒険遊び場の会 結成 |
| 1999年 4月 | ・国分寺市プレイステーション運営を受託
・民間財団よりの補助金にて「遊びの出前プレイキッズ」運営継続 |
| 2000年 1月 | ・東京都より特定非営利活動法人の認証 |
| 2000年10月 | ・親子で遊ぼう「ブンブンひろば」事業開始 |
| 2002年 | ・名称を「冒険遊び場の会」に変更 |
| 2002年 4月 | ・子育て支援課より移動児童館事業を受託 |
| 2004年10月 | ・子育てひろば「BOUKENたまご」事業開始 |

- 2007年11月 ・子育て支援課より野外活動事業を受託
(移動児童館事業から契約変更になる)
- 2008年 2月 ・野外活動事業に応募し、これまでの3公園に加えてけやき公園にて
行なうことが採択され事業実施。
- 4月 ・国分寺市提案型協働事業に応募し採択され、駅前子育てサロンとして、
「BOUKENたまご」の室内型親子ひろばと、公園での親子ひろば3ヶ所の運営開始。
- 2009年 4月 ・公募型協働事業として4公園で野外活動事業活動を開催。
- 2010年11月 ・公募型協働事業として応募し、国分寺市内の子育てガイド「子育てふれあいブック」「子育てふれあいマップ」の製作を受託。
- 2012年 4月 ・武蔵国分寺公園指定管理者「むさしのパートナーズ」と共同事業で、
武蔵国分寺公園内の森にて、月に1回の遊びの場「あそぶの森」の開催をスタートする。
- 2012年10月 ・武蔵国分寺公園内の森にて、冒険遊び場の会自主事業として、屋外型の親子ひろばを毎週1回開催。(国分寺市子育て支援課後援・武蔵国分寺公園指定管理者「むさしのパートナーズ」協力)
- 2014年 4月 ・国分寺市公募型協働事業として、東部地区親子ひろばとして、「BOUKENたまご」の室内型親子ひろばの運営を受託する。
・国分寺市公募型協働事業として、屋外型親子ひろばとして、市内各地でおこなっている公園での親子ひろば3ヶ所の運営を受託する。
・国分寺市公募型協働事業として、市内公園4ヶ所にて行なっている野外活動事業の活動を受託する。
- 2015年11月 ・国分寺市の政策として東部地区親子ひろば「BOUKENたまご」の場所が国分寺駅南口に移動し、そこで運営を続行する。
- 2016年 4月 ・国分寺市の東部地区拠点親子ひろば事業として、業務を受託し、拠点としての「BOUKENたまご」の運営をスタートする。

以上、1，国分寺市プレイステーションの管理運営受託、2，子ども野外事業の受託、3，東部地区室内型親子ひろば、屋外型親子ひろば、4，武蔵国分寺公園での他NPOとのコラボレーション事業、5，武蔵国分寺公園での自主事業親子ひろば、は全て開設以来継続して運営してきた。

(4) 団体等運営の透明性・公平性

* 進んで団体等の情報等を公表しているか

・団体の事務所に 事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録、理事の情報、定款、規則等を常備し、求められれば常に公開できる状態にしている。

- ・会員向けには会報（季刊発行）と活動報告書（年1回）を通して、活動の報告、予算決算等財政状況について情報を公開している。
- ・活動報告書については行政や関係各機関にも配布している。
- ・インターネットのホームページでは、団体の概要から各事業の内容、活動報告書、決算などの情報を公開し、誰にでも情報が得られる仕組みになっている。
- ・NPO 法人の監督官庁である東京都へは、毎年、事業報告、収支計算書、貸借対照表、財産目録を報告しており、公開されている。
- ・2014年7月に、東京都より認定NPO 法人の認定を受ける。認定を受けるにあたって、より多くの情報が公開されているという観点からも審査を受け、公益性が高いことも立証された。

（5）団体等運営における法令等遵守状況

＊ 個人情報保護法、労働基準法等が遵守されているか

- ・個人情報保護法により、保護されるべき利用者の個人情報は事務担当者により厳重に保管され、保存の必要のない書類は教育委員会の協力によって毎年破棄している。
- ・労働基準法によって、正規職員の休日を確保し、休日出勤のある時は法令に則って代休を取っている。また雇用保険、労災保険に加入している。アルバイト職員については全員が労災保険に加入している。
- ・2014年7月に、東京都より認定NPO 法人の認定を受ける。認定を受けるにあたって、活動や組織運営が適正に行われているかという観点からも審査を受け、公益性が高いことも立証された。

（6）運営実績

＊ 同様な施設での運営実績（契約書等の添付のこと）

2002年 4月	子育て支援課より移動児童館事業を受託	7年
2008年 4月	子育て支援課より提案型協働事業として、「駅前親子サロン事業」の運営開始	3年
2009年 4月	子育て支援課より野外活動事業を受託	2年
2011年 4月	子育て支援課より協働事業として、「駅前親子サロン事業」の運営受託	3年
2011年 4月	子育て支援課より野外活動事業を運営受託	3年
2011年 4月	子育て支援課より協働事業として、「駅前親子サロン事業」の運営受託	3年
2011年 4月	子育て支援課より協働事業として、「駅前親子サロン事業」の運営受託	3年

2013年 4月	子育て支援課より「西恋ヶ窪親子ひろば事業」を運営受託	3年
2013年 11月	社会教育・スポーツ振興課より協働事業として、 「地域子ども教室」の業務委託を受託	半年
2014年 4月	子育て相談室より協働事業として、 「東部地区協働型親子ひろば事業」の業務委託を受託	1年
2014年 4月	子育て相談室より協働事業として、 「屋外型親子ひろば事業」の業務委託を受託	3年
2014年 4月	子育て相談室より協働事業として、 「子ども野外事業」の業務委託を受託	3年
2015年 4月	子育て相談室より協働事業として、 「東部地区協働型親子ひろば事業」の業務委託を受託	1年
2016年 4月	子育て相談室より「東部地区拠点親子ひろば事業」の業務 を受託	3年

(7) 効率・効果的運営への取組み状況

* 施設利用の促進方策・創意工夫

利用促進のために、地域の学校、児童館、公民館にイベントのポスターなどを掲示。また、会員（200名程度）や利用者を通じてのクチこみの情報提供も重要視している。また、市内小中学生やその保護者にも「国分寺市プレイステーション」の存在を知ってもらうために、市内全小中学校の全生徒にお便りを配布している。

利用者を増やすために、自主事業として年1回のまつりイベントを行い、創意工夫（縄文体験、忍者修行、昔体験、子ども商店街など）をしてたくさんの来場者が来られるようにしている。また、対象となる子どもだけでなく親子で楽しめる工夫をすることで、親の理解が得られ、自然と来場する子どもが増えていくと思われる。

その他、地域のさまざまな団体が利用しやすいよう、道具や材料の提供、情報提供、イベントの相談に応じている。

また、小中学生たちだけでなく、乳幼児期の子どもとその保護者にも利用してもらえるように工夫をしている。特に、毎週木曜日の午前中には「親子の日」と称して、初めて遊びに来た親子にも遊びに入りやすい工夫をしている。また、日常の親子への遊びの場の提供とは別に、「遊びにおいでよ。プレイステーション」と題して、自主事業で乳幼児と保護者向けのイベントを行っている。また乳幼児期の親子たちが少しでも自分たちで主体的に子育てができるよう、自主保育グループの相談にのったり、応援をしている。

初めて遊びに来た来場者のために「プレイステーション場内地図」をつくり、またプレイリーダーや事務担当者が積極的に個別に説明をするようにしている。

(8) 受託への熱意・意欲

・自然を生かした手作り施設の工夫

冒険遊び場の遊具や設備は、子どもの要望やプレイリーダーの考えの基に常に作り替えられ、変化させていく。(地権者との話し合いを元に行っていく)

・手作り遊具の重視

ものづくりを通じて子どもたちが得ることは多いので、遊びの道具はできるだけ手作りすることを原則に(刀、弓矢、魚とりの網、虫かご、ドールハウスなど)、材料や道具をできるだけ準備していく。

・生き物への関心を高める取り組み

魚獲りや虫獲りなどに子どもたちを誘い、網やつり竿等を子どもたちと手作りし、また飼える生き物は冒険遊び場で飼っていく。

・食物を育てる

畑でさまざまな果樹や花、野菜作りなどを子どもと行い、食物を育てる大変さ、楽しさ、収穫の喜びを子どもたちと分かち合う。

・“火”の体験活動

「火の経験」

日常の遊びの中で、子どもたちが火をおこしたり、火を使って遊具などのものづくりをするという体験を大事にしていく。最近の子どもたちは“火”についての体験が不足していることから、“火”の“熱さ”“怖さ”を体感し、日常の中ではなかなか培うことができない“危険回避能力”を養っていくことにもつなげていく。

これらは、プレイリーダーという専門職を置いているからこそ可能な活動であり、災害時の備えとしても重要な活動である。

「食育」

日常の遊びの中で、火を使ってのおやつづくりなどを行っていく。子どもたちは自分の手で火をおこし、食べるものをつくる体験を通して、食べる喜びや食べ物の大切さを知り、“食育”へつなげていく。

・親子で楽しめるものづくり

大人も子どもも楽しめる工作や粘土作品の手作り、織物などを提案していく。

・乳幼児の親子の場として

午前中のプレイステーションを使って、乳幼児が自然豊かな中で遊ぶことができるよう、乳幼児期の子どもとその保護者が利用しやすい工夫をしていく。

・地域の中の遊び場として

単にプレイステーションの中だけの運営にとどまらず、子どもの遊びを見守る大人として地域全体に目を向け、お鷹の道や史跡公園などを含めて子どもの居場所ととらえていきたい。時には史跡公園での凧揚げ、また桑の実とり、魚獲り、散歩などの形で子どもの地域での遊びを支援していく。

また、地域の人たちとより良い関係を築くために、もちつき会や、ぶんぶんうおーく（自主事業）などの地域の人たちが入りやすいイベントを企画していく。もちつき会に関しては、プレイリーダー、利用者と共に、子どもたちを巻き込みながら、冬ならではのもちつきを行い、そこに、地域の方々をご招待し、餅を一緒につき、ついたお餅を囲みながらの親睦の場にしていく。

- その他自主事業として

年に1回行うプレイステーションまつりは、子ども主体のおまつりとして、まつりの作り手として、日常の活動の中で子どもたちを誘いながら、子どもたちの独創的な企画を取り込みながら作り上げていく。また、そこには、地域のボランティアも一緒に子どもたちのためのイベントを企画段階から一緒に話し合い練り上げていく。

乳幼児の親子にもたくさん利用してもらうために、乳幼児向けのイベントを開催する。乳幼児の子育て支援の場所としても、プレイリーダーたちが相談にのったり協力していく。

（9）事業運営への独創性

*団体等でしか出来ない事業提案

- 地域のつながりを生かして

冒険遊び場の会は、地域のボランティアやPTA、市民活動などに熱心に取り組んできたスタッフが多く、長年の活動の中で育ててきた行政や諸団体との連携も大きな強みとなっている。そのため、おまつりなど大きなイベントなどでは多くの協力者を得ることが出来、毎年100名以上のボランティアで運営されている。

また市内各地域10カ所で行っている遊び場運営や子育てひろば運営が、子どもの遊びや遊び場への理解者を増やす道ともなっており、多くのボランティアやスタッフとして活動を担っている。

- 他の事業と連動し、その発信基地として

冒険遊び場が1カ所あればいい、という発想ではなく、市内のいろいろな地域の子どもが豊かに遊べるよう、公園での遊び場活動や親子ひろば活動などを運営しながら、それらと連動する形で、遊びの環境作りの発信基地として、市プレイステーションが機能していく形をとっていきたい。また、小学生だけにとどまらず、0歳の赤ちゃんから乳児、幼児、小学生、中学生そして、その親たちも含めて、国分寺市内全域の子どもたちや子育てにかかわる人たちに、「たっぷりと豊かな遊びを」をテーマに、野外で遊ぶことの楽しさを伝えていくとともに、遊びの楽しさ、面白さ、不思議さなどを体験して成長していつてもらいたいと考えている。

- 乳幼児の子育て、子育て支援の場所として

私たちは、子育てを応援する場所として「国分寺市プレイステーション」がとてもいいコミュニケーションの場になると考えている。なぜなら、自然に恵まれた場所である

こと、常勤のプレイリーダーがいつもいて、遊びを通して子どもや親と関われること、そして屋外の冒険遊び場は、父親が参加しやすい状況を生みやすい事があげられる。父親が子どもと一緒に、家族でプレイステーションに来てもらえるような場も工夫していく。

・経験あるプレイリーダーを生かして

10年以上子どもたちをみる仕事をしてきたスタッフを何人も擁しているため、子どもたちが生き生きする場や遊具の工夫、様々な遊びのノウハウがたくさん集積されている。それらは冒険遊び場をより豊かな魅力ある場にできる要素となっている。

プレイリーダーによるものづくり（織物、染物、アクセサリ、野外料理、小屋、陶器、楽器、ナイフ、下駄、道具入れなど）もそのひとつで、それらがいい循環で子どもや親に伝わり、生活の中の遊びとして展開することができる。

・プレイリーダー講習会の実施

子どもたちの健全な遊びを育むためには、遊び場を整備していくことが不可欠であるが、それだけでは子どもたちが十分遊べないという現状がある。

そういう中で、特に、一定のスキルをもって子どもの遊びを見守り、子どもの気持ちを大人に伝えたり、遊びや遊び場を守ろうとする大人が必要である。それがプレイリーダーである。プレイリーダーは、冒険遊び場にはもちろんのこと、地域の遊び場や児童館、子ども会など、様々な子どもと関わる場面で必要であり、放課後対策を含め今後多くの人材が必要になっていくと予想される。

そこで、以下のようにプレイリーダーの養成を目指した講習会を行う

目的

・地域の大人が子どもとの関わり方を学ぶ・遊び場におけるプレイリーダースタッフの人材育成・現任研修

事業内容

・子どもとのかかわり方・遊び場のデザイン・子どもの遊びや遊び場の現状認識・安全管理など・実技（ものづくり、表現、自然遊びなど）

実績

2002年度より毎年プレイリーダー講習会を実施する中、多くの冒険遊び場に興味をもっている人や学生などが参加し学んでいる。毎年、講義や座学と実技の2本立ての内容を要し、さまざまな内容の講習会を企画、立案しておこなっている。今年度は、61名の参加があった。

これまでとりあげてきた内容

「遊び場のデザイン・紙芝居作り」「大型遊具作り」「土でつくる遊び場」「まちの公園で子どもと遊ぼう」「火で遊ぶ・冒険を可能にする遊び場の安全管理」「基地づくり・基地づくりにおける安全管理」「子どもと関わる力をつけよう」「子どもと関わる大人がもっていたい大切なこと」「子どもと大人・身近な自然と共に」「“夢”と“まち”」「いじめを生まない土壌づくり、創造性を養うごっこ遊び」「子どもたちの声を伝えよう」「子ど

もの実態と、今、本当に必要な事」

(10) 施設管理の安全性への配慮

*有資格者の常駐・施設管理の専門性のある団体等

保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、盲学校、養護学校教諭、看護師、心理カウンセラー、助産師、栄養士、図書館司書、1級土木施工管理技士など、さまざまな職業をしてきたプレイリーダーを有する。

日常的な安全管理としては、

- ・ 施設管理について、毎日手作り遊具を含めた場内全体の安全管理作業から仕事を始める。
 - 1, 場内の遊具設備の点検補修
 - 2, 地面に落ちているクギなどの危険物の除去
 - 3, 端材や資材置き場の点検
 - 4, 折れやすい木などのチェック
- ・ 安全管理に係わる有資格者としてプレイリーダーを常時配置し、危険な状況が起こらないよう子どもの遊びを常に見守る。
- ・ 不審者などが入場しないよう、入り口の事務所で入場者をチェックする。
- ・ 安全管理マニュアルを作成し、それに基づいて場内の管理を行う。マニュアルの内容については毎年の事業会議で確認・見直しを行っていく。
- ・ ヒヤリハットの記録を行い、それをもとに現場会議で対策を話し合い、毎年の全体スタッフ会議にて議論を行っている。

(11) 利用者への対応状況（接遇・苦情対応）

*利用者への対応マニュアル・社員教育独自マニュアルの整備（利用者へ平等利用の確保できているか）

- ・ 年度当初にプレイステーションの利用の仕方についてチラシを作成。入場者に配布
- ・ 年度当初に団体利用の申し込みについてチラシを作成。申込者に配布
- ・ 利用方法について分からないことは、プレイリーダー、事務職員が説明する。
- ・ 毎年度が始まる前に、会のスタッフ全員での研修会を開催。そこでは、会でおこなっている事業全ての内容説明を行うとともに、事業を行う意味やスタンス、公共の考え方、利用者の立場にたつての私たちの役割、使命、安全管理等独自マニュアルを作成して開催している。
- ・ 苦情対応に関しては、これまでどおり丁寧な対応と説明を続ける。
一方で、利用者や近隣の様々な市民により多様な意見が寄せられてきており、一方的な苦情や意見だけに対応するのではなく、公平性・平等性に配慮した対応が求められている

る。現場での判断が難しい事例については、行政担当課と協議の上で対応する。

(12) 社員等の育成状況

* 研修の実施状況等

1. 年1回のプレイリーダー講習会に出席し、研鑽していく。(内容については前ページ記載)
2. 経験のある専任プレイリーダーより随時指導を受けられる体制がある。また、様々な能力をもったプレイリーダーを要しているため、プレイリーダー間で常に研修を行い、高め合っている。
3. プレイリーダー講習会とは別に、遊び場の安全管理やプレイリーダーの資質について、NPO法人についての理解、活動の目標設定や振り返りなどを含めた研修会を年間2回行っている。

(13) 個人情報保護対策状況 (情報の管理体制)

- ・プレイステーション来場者についての個人情報 (氏名のみ) は年に1回まとめて社会教育課にて廃棄処分
- ・「個人情報保護に関する手引き」を作成し、スタッフへの周知を徹底している。
- ・書類や取り扱い個人情報 (自主事業等) についても、適切な場所での保管を徹底している。

(14) 自主事業などの提案

* 施設の設置目的に沿って団体が独自に企画し、自己の財源で行う事業

* 自主事業収支計算書 (任意書式) を提出してください。

プレイステーションまつり

<目的>

- ・子ども主体の手作りまつりを開催する。
- ・プレイステーションならではの、自然物をつかった遊びや、様々な体験をする。
- ・対象となる子どもだけでなく親子で楽しい体験をする。
- ・多くの学生や地域の人たち、スタッフ、理事たちがみんなで力を合わせる良い機会にしていく。そこで、多くの人たちがボランティアで関わる中で、子どもたちのことを考える良い機会にもなっていく。

<内容>

- ・子どもたちが自分たちのお店を企画立案する「子どもの店」の他、子どもが仕事を体験できる子どもハローワークなど自然体験活動やもの作り、身体を使った遊び、などの体

験ができる場を設定していく。

- ・子どもたちがやりたいことが実現できるように、プレイリーダーはじめ、大人がサポートしていく。

「遊びにおいでよ。プレイステーション」の開催

<目的>

- ・乳幼児の子育てにとって、とても有効な場所である「国分寺市プレイステーション」の存在を乳幼児の親子に知ってもらう。

<内容>

- ・日常いるプレイリーダーだけでなく、会の子育て支援専門のスタッフを配置し、初めての親子でも参加しやすい、入りやすい企画を用意する。

親子ひろば週間イベント

<目的>

- ・乳幼児の親子に外で遊ぶ楽しさを身体で感じてもらう機会をもつ。
- ・西元町、東元町にある複数の親子ひろばが、共通の目的をもって一緒に活動することにより、乳幼児の親子たちも含め、交流の場にしていく。
- ・屋外のプレイステーションと、屋内のもとまち地域センターの両方を使用することにより、0歳の赤ちゃんから活発な幼児まで幅広い乳幼児の親子たちが遊びにくるいい機会をつくる。

<内容>

- ・市内南地区（西元町、東元町地区）でおこなっている親子ひろば3ヶ所（冒険遊び場の会・矢島助産院・プレイセンター「小さな森」）が、国分寺市プレイステーション、もとまち地域センターを会場にして、「親子ひろば週間イベント」をおこなう。
- ・プレイステーションでは、どろんこ遊びや、草花遊び、手作り遊具で遊んだり、自然とふれあいながら遊ぶ場をつくる。

地域を巻き込んだイベントとして

<目的>

近隣の方、地域の方たちに、活動の様子や子どもたちのことを知ってもらう。

地域の方々の理解を得ること。

地域の方々とにより良い関係をつくっていく。

①プレイステーション清掃デー

- ・日常的にプレイステーションの場内、場外の清掃は行ってはいるが、春を過ぎた頃から爆発的に草が生い茂り、場内、場外ともに清掃がおいつかない状況である。そこで、利用者の人たち、地域の人たちとスタッフが一緒になって、広い敷地の中や外周を清掃す

る。

- ・清掃後はお疲れ様の気持ちとともに、野外料理をしてみんなで食べ、地域の人たちとの交友を深める。

②ぶんぶんうおーく（クラフト市&プレステマルシェ）

<目的>

- ・国分寺駅南口周辺で活動している様々な団体と一緒に、地域に根差したイベントをおこなっていく。
- ・「ぶんぶんうおーく」として、国分寺駅南口に多くの人が足を運ぶなか、国分寺市プレイステーションの存在を多くの人に知ってもらおうきかけとしていく。
- ・子どもの遊び場なので、地域の方がなかなか日常の中では来ることがないプレイステーションだが、近隣の方、地域の方たちにも、活動の様子や子どもたちのことを知ってもらうためには、足を運んでもらうことが重要だと考える。日常の活動の中では足を運んでもらうことはなかなか難しいと思われることから、「ぶんぶんうおーく」として、地域の人たちが足を運びやすい内容のイベントを行っていく。

<内容>

プレイリーダーと利用者・ボランティアの方々と一緒に、プレイステーションの場内の一角を使って、青空市を行う。

○手作り品販売

- ・プレイステーション場内の自然素材から作られた遊び道具など
- ・プレイステーション利用者の手作り小物

○クラフトカフェも同時開催

- ・親子で参加できる簡単な工作。手作りを得意とする利用者（ママ、パパ）が教えてくれる。

○地域の方々との交流の場としての、カフェコーナー。

○日常のプレイステーションの様子がわかるような遊びのしかけも行う。

③工作キット、ベーゴマ等販売

<目的>

- ・土曜、日曜には多くの父親、母親が子どもを連れてやってくるが、工作はとても人気のある遊びのひとつである。しかし、道具を使っただけの工作に不慣れになっている親たちには作業はなかなか難しく、手持ち無沙汰になったり、手を出しづらそうな状況もあった。特に父親たちから、工作キットのようなものが欲しいという要望がかねてからあったため、工作キットの実費販売を企画した。
- ・コマやベーゴマなど、昔遊びを日常的に遊んでいるが、家に帰っても遊びたいという子や遊びに来た親子のために、コマやベーゴマの販売をしていく。（コマやベーゴマを購入できる店が近隣にないため）

〈内容〉

- ・主に、父親が子どもと一緒に作ることへのきっかけになるように、工作キットを販売する。
- ・コマやベーゴマを購入できる店が近隣にないため、プレイステーションで遊ぶために購入する時に多めに仕入れて、それを販売する。

④飲み物販売

地域の親子連れの出会いの場、子育ての場として機能させていくためには、午前中の時間には、親子が遊びに来やすい雰囲気をつくるように努力している。遊びができる傍らに、「カフェ」のような手作りの椅子やテーブルを配置し、飲み物を実費で飲めるように提供し、子育てに疲れた母親たちがホッとできるような場をつくっていく。そこで親子同士が仲良くなれるような雰囲気づくりもしていく。

また昨今、温暖化により夏が異常に暑くなり、熱中症対策は万全にしなければならない。水道はあるが、水道水を飲まない親子も出てきているのが実情で、また、近くに飲み物を販売している場所もないことから、飲み物を置いてほしいという利用者のニーズがかなりあり、飲み物を事務所で提供していく。

⑤薪、炭販売

日常の遊びの中で、子どもたちの火の体験、火を使ってのおやつづくりなどを行っている。しかし、イベントの中で、子どもたちと一緒に“火”をおこし、野外料理をしたりしている。しかし、近隣からの昨今の“煙”への苦情もあり、燃やした時の煙の量を減らすために、あらかじめ、より良い状態の薪を用意して対応している。

しかし、薪割りに労力がかかることや、必要最低限の薪の使用をお願いするためにも、親子で使用する薪に関しては薪を販売して利用者負担にしていく。また、燃やす時間を要するが、煙の少ない炭も使用していくために、販売していく。

子どもたちの使用する薪に関しては、今まで通り、プレイリーダーが用意し、プレイリーダーの管理の下で無償で使えるようにしていく。

(15) 障害者の雇用状況

*雇用割合や方針

現在雇用はないが、ボランティアによるおまつり時の応援スタッフとして協力してもらっている。

プレイリーダーという子どもに関わる仕事の性質上、責任上、障がい者にプレイリーダーとして働いてもらうことは不可能だが、地域の方たち、障がいをもった人たち、お年寄りの方たち等、多くのボランティアの方たちによって支えられて会が存在している。

(16) 高齢者の雇用状況

*雇用割合や方針

現在雇用はないが、日常的に軽易な事務作業や活動の写真をとってもらったり、畑作業をしてもらうなど、その方に応じてボランティアとして協力してもらっている。

(17) 管理運営に必要な提案金額

※詳細については、別紙収支計算書を参照。

(18) 環境の配慮

* ISO などの取り組み状況

- 1, プレイステーションのもともとの自然環境を残し、木や草、土を基本にする。設備や遊具も基本的に木などで手作りし、古くなれば材料もリサイクルするなど、環境に負荷のかからない運営を心がける。
- 2, ガス暖房も冷房もおかず、夏は木陰で涼をとるとい生活そのものを、子どもたちの経験として活動の根幹に置く。
- 3, 一方でたき火などが有害物質を発生させないよう、化学物質を使った合板や落ち葉などの燃焼を避けることを子どもたちにも教えていく。
- 4, 水資源については雨水をためて利用するなど、活動の一環として子どもたちと共に取り組んでいく。
- 5, ゴミについては利用者の持ち帰りを原則とし、ゴミ箱は設置しない。

(19) 地域雇用の状況（現状及びこれからの計画）

冒険遊び場の会は、現状として、地域のボランティアやPTA、市民活動などに熱心に取り組んできたスタッフを多く雇用している。また、新規雇用を行う際は、国分寺市市報にて募集を行い、そこから雇用につなげている。そのため、市内の雇用、女性の雇用が多くなっている。市民が全体の9割を占める

(20) 災害時の対応

*災害が発生した場合の対応

防災マニュアルに従って、行動する。また、日常の中でも、地震等の災害を想定し、利用者も含めての避難訓練を行う。

また、不審者対策として、不審者が場内に入ってきたことを想定し、避難訓練を行う。